

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	1
受付番号	2
団体名	特定非営利活動法人 長野スポーツコミュニティクラブ東北
部門	【企画研究】
補助金要望額 (円)	100,000
活動名	キッズを対象とした「アドベンチャーワールド」を創るための試行事業
活動の 目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の人達の交流を図るため、スポーツを核とした活動を試行。</li> <li>・脳の発達に関わりの深い8才以下の幼児、子ども達の関わりをスポーツ活動や遊びをとおして、「群れて遊べる」環境を創る。</li> <li>・おじいちゃん・おばあちゃんが孫たちと関わりながら、自分たちも元気になる生きがいや活力を高める。</li> <li>・陸上、サッカー、バスケットボール的なスポーツを絡ませながら、おじいちゃん・おばあちゃん達が知っている伝承遊びやリズムダンス等。</li> <li>・指導者として信州大学や長野県短期大学の学生にボランティアとしてお願いしていく。</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型のスポーツ振興により子どもから高齢者までの世代間交流が生まれ、住民相互のきずなが深まっていく活動は、他地区でのモデルとなると思います。子どもの主体性を生かすとともに、伝承遊びにも力を入れていただき、地域ぐるみの活動になることを期待します。</li> <li>・人材を活用した素晴らしい事業だと感じました。ぜひ独自の手法などを開発し、発展していただけたいと思います。また、最終目標に向けて、子どもと高齢者という切り口がいかに学術的に根拠付けられているかをより明確にしていければ、支援や参加も求めやすいのではないのでしょうか。</li> <li>・子どもと高齢者の交流ということで、怪我など安全面にも注意が必要だと思います。</li> <li>・「群れて遊ぶ」というキーワードは、興味をそそり、活動に期待が持てます。</li> <li>・前回（20、21年度）の「グッバイメタボリック」の50歳以上の高齢者とのコラボレーションにより、より充実した事業展開や広い分野での充実が図られると思います。</li> <li>・大学生の参加を促進することで、若い世代の学びの場ともなり、彼らの持てる力を地域社会に貢献するよい場となると思います。</li> <li>・学生ボランティアだけでなく、保護者に声かけするなど、年代の幅を広げてはいかがでしょうか。</li> <li>・学生ボランティアへの交通費だけで、経費の9割を占めており、地域の人達がどう育っていくか見えにくいと感じました。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	2
受付番号	13
団体名	川中島甚句・音頭保存会
部門	【企画研究】
補助金要望額 (円)	100,000
活動名	川中島地域に伝わる甚句や音頭の調査研究、普及拡大
活動の 目的・内容	<p>地域の甚句や音頭を掘り起こし、調査研究をして資料編纂することで伝承文化を保存し、次世代へ引き継ぐ。甚句、音頭の普及拡大活動を通して、地域に新たなつながりを生み出すまちづくりを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 川中島地域に伝わる甚句、音頭の調査研究を通して、地区の高齢者や知識人とつながりをつくり、まちづくりに参加してもらう。</li> <li>2. 「川中島音頭」に関する調査をし、冊子、DVD作成により、文字と映像で保存する。</li> <li>3. 「川中島音頭」講習会を開催し、地域に普及する。</li> </ol>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の文化を保存そして成長させていくという点で素晴らしいと感じました。全国にある各地の音頭や踊り等との比較研究や、フォーラムへの参画も参考になると思います。また今後、幼稚園や小学校での川中島音頭の採用等を企画していく価値はあると思います。研究と同時に発表、普及の場を多く設けていただければと思います。</li> <li>・川中島甚句の正統派の継承と、21世紀バージョンをお考えであるということで、多くの層から支持される甚句にしていきたいと思います。よさこいやソーラン節のように、アレンジがさまざまにあって、コンテストを開くようなイベントに高めていけたら楽しいし、興味深いと思います。</li> <li>・地域に伝わる伝統芸能を掘り起こして復興させていく取組みは希薄になりがちな地域社会に人と人がつながっていくきっかけとして大変大事な取組みだと思います。</li> <li>・高齢者だけではなくて、若い人や子どもたちも巻き込んで、地域の文化、歴史を残していけるよう地域ぐるみの活動へと発展していくことを期待します。</li> <li>・冊子、DVDの有効活用をもう少し深めていただけるとよいのではないかと思います。</li> <li>・地域活性化に向けた次の継続的施策が見えてきません。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	3
受付番号	16
団体名	善光寺宿（ぜんこうじじゆく）をもっと知ろう会
部門	【企画研究】
補助金要望額 (円)	100,000
活動名	日本一の門前町『善光寺宿』の資料収集・現地調査事業
活動の 目的・内容	<p>郷土史に関心を持ち活動してきた会員が、経験と知識・人脈を生かし研究資料・文献や日記など古文書の記載を頼りに現地で地道な調査を行い、善光寺宿を知り愛着を持つ人を増やし、中心市街地の活性に貢献する。</p> <p>1 実施項目：善光寺宿に関する資料収集と現地確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺宿場との比較研究（何が同じで何が違った特長か知る）</li> <li>・月例会による進捗取りまとめ</li> </ul> <p>2 場所：主に善光寺宿の情報がある地域・施設。周辺宿場（屋代宿・丹波島宿・稲荷山宿・坂城宿など）の調査</p>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・善光寺宿という切り口は今まで善光寺界限におけるまちづくりに取り組んできた団体の中にはなかったように思います。既存の善光寺界限のまちづくりに取り組んでいる団体と連携を深めながら、新しい発見をして活力あるまちづくりに取り組んでいただきたいとします。</li> <li>・善光寺周辺の調査団体は各種存在しますが、善光寺宿という特色を打ち出していけるとよいのではないかと感じました。御開張に向けて、事前準備として発信をしていくべきターゲットを明確にし、読者をイメージしたガイドマップ制作を期待しています。</li> <li>・周辺の宿場(屋代宿、丹波島宿、稲荷山宿)などの調査は地元の郷土史愛好家などと連携して資料収集、研究を進めてはいかがでしょうか。</li> <li>・ガイドマップ作成後、どの程度の規模で、どのように活用するのか、ガイド料の設定等全体像と合わせて対応していただきたいとします。</li> <li>・善光寺宿をまとめた冊子等を活用して、地域活動に役立てられるとよいと思います。</li> <li>・善光寺を点ではなく、善光寺宿として県内外にアピールできるということですが、善光寺事務局や商店会、周辺地域住民との連携は欠かせないのではないのでしょうか。</li> <li>・地元の資料整理は発掘保存に力を入れられてはいかがでしょうか。</li> <li>・広報に関してホームページだけでは弱いと思います。更に広く周知する為の工夫が必要だと思いました。</li> <li>・単に趣味の延長で研究を続けることとは違うこと、また、一般観光客にとって、何が魅力的かを明確に示すことで、会の信頼度が増すと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	4
受付番号	17
団体名	Mam's Style (ママズスタイル) 実行委員会
部門	【企画研究】
補助金要望額 (円)	100,000
活動名	地域の仕事場づくりー小さな子どもを子育てする母親の共同場ー
活動の 目的・内容	<p>特に未就園児を抱える母親は出産と子育てにより長期にわたって、仕事（労働）を通した社会と離れた状態にある。「子育ても自分でしたいし出来る限り働きたい」という母親の願いを、仲間を集うことで協力し合っ解決できるようにし、母親の自己実現が子育てにゆとりと地域社会に元気を呼び起こすことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーペーパーの発行（年6回）</li> <li>・ブログや専用ホームページの制作</li> <li>・視察、勉強会（11人年3回）</li> <li>・市内を中心としたイベントへ参加（年4回）</li> <li>・ハンドメイド講座等（年3回）</li> <li>・自主イベント（トークショー、ショップ）</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・停滞した社会を変えていく力として女性による起業に期待が寄せられています。起業の意欲をもった女性たちが集まり、交流していく中で、自信をつけ、自分の得意を生かして仕事を生み出し、起業していくことによって長野市の活力が生まれていくことと思います。</li> <li>・子育てをしながら、母親の自己実現も可能にする新しい子育てのスタイルとして大いに期待します。同時に父親も育児にどう関わるかも研究の課題にしてはいかがでしょうか。</li> <li>・子育てしながら働きたい女性の力となる存在になるよう、願っています。お母さんの働く場の支援は良い活動だと思います。</li> <li>・市民公益活動センターの女性社会起業家講座、男女共同参画センターの起業家育成支援講座等で、起業を支援しているので、まずはそれらを受講し、その上での問題点等を、この会としての活動にどう位置づけ、捉えたらいいのかを考えた活動にした方が、効率的ではないかと思ます。</li> <li>・今後の展開を考えたとき、子どもがいるいないにかかわらず、人生の先輩もいる中で、会に賛同する人を募るなどして、対象者の輪を広げていってはいかがでしょうか。自立の後、会をどうしていくのか、中長期の目標を明確にしていただければと思います。</li> <li>・こういった事業は参加人数の多さによって活動の幅も広がってくると思います。積極的な広報活動をして、広く参加者を募れば最終目標に近づけるのではないかと感じました。</li> <li>・もっと色々なイベント等に出向いてアピールする事も良いのではないのでしょうか。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	6
受付番号	12
団体名	ねこの命をつなぐ会
部門	【ホップ（スタート枠）】
補助金要望額 (円)	463,000
活動名	殺処分ゼロを目指すとともに猫との共生を考える
活動の 目的・内容	<p>長野市内では、飼主のいない猫の自然繁殖、事故死、自然淘汰の他に、飼主が避妊去勢手術をしなかったために猫が増え、飼主による保健所への持込みといったケースが多く収容期限内に譲渡に至らなかった場合は殺処分されている。</p> <p>目的は、次の3つとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 飼主のいない猫を地域猫(地域で避妊去勢をして面倒をみる)として管理し、その地域で数を増やさないこと。</li> <li>2 里親制度を周知することで市民や子どもたちに、活動を通じて命の尊さを伝え、保健、自然、青少年の健全育成に資すること。</li> <li>3 1と2により、保護された猫や飼主からの引取猫の数を減らすことで、殺処分ゼロを目指すこと。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野市保健所譲渡会参加</li> <li>・定例会議開催：シェルター</li> <li>・猫の世話：シェルター(毎日朝・夕・夜中)</li> <li>・HPとブログ作成・更新：情報更新及び会員募集(随時)</li> <li>・会報発行：会員及びボランティア等への配布(奇数月)</li> <li>・情報誌やラジオ等による周知広報活動及び会員募集(不定期)</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設に預かる活動の前に、自然繁殖等を減らす活動にも取り組まれてはいかがでしょうか。ペット事業者も参加して死ぬまで飼う状況を醸成する取組みも必要だと思います。</li> <li>・人と人とのつながりが薄れていく中で、地域猫という発想は、これからの地域社会にとって大切な取組みになっていくと思います。継続的な取組みができるよう、しっかりとした基盤を確立していただきたいと思います。</li> <li>・非常に難しく、ナイーブな事業に取り組んでいるという印象を受けました。この事業がより一層周知され、長野に動物愛護の精神が深まっていく事を期待します。ともすればネガティブになりかねない側面をうまく包括し、楽しい印象を発信できれば、より素晴らしい結果になると感じました。</li> <li>・各団体や行政とのコラボレーションで、更に活動を広げて行っていただきたいと思います。ただし、今後の自立が課題だと思います。</li> <li>・保健所と住民自治協議会等とも連絡を密にしながら、地域との連携を図っていただきたいと思います。</li> <li>・学校などにも出向いて「いのちを考える」啓発授業などもしてはいかがでしょうか。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	7
受付番号	15
団体名	長野市ふれジョブを考える会
部門	【ホップ（スタート枠）】
補助金要望額 （円）	100,000
活動名	ふれジョブで笑顔いっぱいの地域づくり
活動の 目的・内容	<p>「地域に出て自分の力を試してみたい。」という子どもの願いを保護者、学校、地域の企業（お店）、地域住民、ジョブサポーターが手をつないで受け止め成長を見守る活動を通して、地域の中に支援の輪を広げ、みんなが顔見知りになり暖かな気持ちで生活できる地域社会をつくる。</p> <p>川中島地区でふれジョブを実施（小学生2名、中学生2名を予定）。 他地区でも希望を募り、実施に向けて説明会を開催する。</p>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川中島モデルケースをぜひ成功させていただき、その成功事例を持って広く広報し、自己資金部分を充実させる必要があると思います。子どもとジョブサポーターの成功、そして企業としてのメリットを明確化し、ウィン×ウインの関係を目指していただきたいと思います。</li> <li>・障害に対する理解は、住民一人一人が接して深まるもの。今後、無理なく、地道に実績を積み重ねつつ、会の継続性・発展性を鑑みて、事業者や地域に積極的に働きかけて活動を広げていくことを期待します。</li> <li>・障害をもったお子さんがプレジョブによって、働く体験をし、それを支える企業やサポートする市民の間で、障害をもったお子さんの理解を深めていく取組みとして長野に根付いていきますよう願っています。</li> <li>・仕事に対するやりがいや責任感を感じてもらえる活動であり、障害者の自立につながる良い支援活動だと思います。</li> <li>・地域全体で、あたたかな気持ちで支えられるような取組みは、成果主義と思われる中で、大事な取組みだと思います。</li> <li>・福祉関係のネットワークや現状改善のワークショップも増やしてはいかがでしょうか。</li> <li>・メンバーの中に、もしくは、オブザーバーで、心理学的な見地から見ることのできる方が必要だと思います。また、メンバーとしても、障害者の心理等も充分心得た上で、接することの必要性を含めて、研修しあうなど、研鑽を積んでいただきたいと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	8
受付番号	23
団体名	長野結婚相談所 準備室
部門	【ホップ（スタート枠）】
補助金要望額 （円）	500,000
活動名	地域の「世話焼き人」創出事業
活動の 目的・内容	<p>近年、長野市で騒がれている人口減少・少子高齢化という課題を解決するために、結婚適齢期の男女の結婚率ひいては出生率の増加を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を講師として募集する</li> <li>・講師に地域の世話焼き人の趣旨説明会</li> <li>・趣旨に賛同いただいた方との今後の活動検討ワークショップ</li> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベントに向けてのモデルイベント開催・効果検証</li> <li>・地域の方を講師として開催する婚活イベントを11月～3月まで月一回の開催</li> <li>・結婚適齢期の子を持つ親同士の婚活イベント11月～3月まで月一回の開催</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て・子育ての前提として婚活を必要としている人に対して、出会いをサポートすることは大事であると思います。</li> <li>・人口減少・少子高齢化という社会的課題解決のために結婚率の増加を図ろうという企画は肯定できますが、こうしたイベントがどのような形で継続され、地域に貢献するのかを十分に検討していただきたいと思います。</li> <li>・継続性の高いモデルへのチャレンジだと感じました。大勢の人を集め成功事例を重ねていただきたいと思います。</li> <li>・婚活イベントにおける「地域の世話焼き人」の役割を明確にする必要があります。</li> <li>・かつてあったような世話焼きさんがそれぞれの地域で復活していくような広がり期待します。</li> <li>・親同士の婚活は面白いアイデアだと思いますが、初めから立ち入った話になりそうなので慎重な対応が必要だと思います。最終的には人が鍵になってくると思いますが、主になるコーディネーターや講師の選定、個人情報の保護・適正管理・保管等明確にして臨んでいただきたいと思います。</li> <li>・既に多くの自治体や団体、企業が婚活に向けた取組みを行っています。県の委託事業の成果・実績を生かしながら、他の取組みとの違いやそれにより達成される効果を明確にして対応していただきたいと思います。</li> <li>・今後に向けて広報一辺倒の展開ではなく蓄積されたノウハウを資料化するなどして、参加者や講師のつながりが増えやすくなるような仕掛けを検討していただきたいと思います。</li> <li>・費用対効果の高い周知方法を模索し、広告宣伝費を抑るべきだと思います。</li> <li>・出会いの機会は提供するが、あとは自己責任でという姿勢から、ビジネスではない活動をどう説明し、対応するのでしょうか。もっと個に寄り添った活動としていただきたいと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	9
受付番号	24
団体名	NOZAWANA Sports Education Club(ノザワナ スポーツエデュケーションクラブ) ※吉田スポーツエデュケーションクラブから改名
部門	【ホップ (スタート枠)】
補助金要望額 (円)	468,000
活動名	スポーツを通した人間形成教育
活動の 目的・内容	<p>子どものスポーツ現場の中で、上手い下手で人を判断する傾向がある。また、試合に勝って自分のおかげと周りに感謝することを知らないといった状況があります。そこで、子ども達の物心が付く最初の段階に基準を正しく設定し人間形成教育を図り、スポーツの楽しさを知り、好きになり、夢中になり、熱中した吸収しやすい状態を作り、人間形成教育をする。</p> <p>専門的なスポーツに入る前の、人間関係作りのためのコミュニケーション能力開発や、身体を動かす楽しさを知り、一生懸命やった分だけ大きな達成感・充実感を味わえるような活動を行います。運動神経向上のためのトレーニングも行います。</p> <p>年齢に応じた、協調性を高めるための、グループで行うゲーム遊び、ボール遊び、競技等、運動神経を高めるための、基本的な動き作りをリズム遊びなど様々な遊びを通して行います。</p>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から、人間関係づくりやコミュニケーション能力を高めるためのトレーニングは重要です。そのためにスポーツをどう活かすのか、よき指導者の育成が急務であると思います。</li> <li>・子どもたちがスポーツを通して人間形成する機会が多様に用意されていくことは大事だと思います。勝敗にこだわらず相手を思いやる気持ちを持ってもらう事が大事です。</li> <li>・市内各地区で開催する中で、反応の良い地域を絞り込んで、その地域の人々の参加を得て、継続的な取組みに発展することを期待します。</li> <li>・既に幼児期からスイミングや体操などさまざまな運動系クラブに参加している家庭が多い現状の中で、選択肢の一つという位置づけなのか、または潜在的な需要があるのかを明確にして対応していただきたいと思います。</li> <li>・会員から会費徴収するなど財政面での工夫をしていただきたいと思います。</li> <li>・非常に情熱的なプレゼンテーションが印象的でしたが、なかなか成功事例の構築が難しい事業かと感じました。性急に結果を求める事なく、頑張ってください。事業を拡大していく上で、学問的な根拠づくりや地域のクラブチーム等との連携を図る事ができればより発展性が増すのではないかと思います。</li> </ul>



平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	11
受付番号	8
団体名	特定非営利活動法人 CFM実行委員会
部門	【ホップ】
補助金要望額 (円)	485,000
活動名	チャリティフィットネスまつり
活動の 目的・内容	<p>・増える高齢者、子どもや若年層の低体力化、不健康者、精神疾患者の増加、地域社会におけるコミュニティの不足が著しい昨今著しい。こうした状況を踏まえ、健康増進事業として、多くの人が多様な運動体験を行うことにより、参加者の心身の健康づくり・体力づくりや豊かな人間関係づくりをする。</p> <p>また、参加費の一部を寄付することによって、健康になると同時に社会貢献に役立っていく。</p> <p>■活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回チャリティフィットネスまつり(長野市内300人×2回動員予定、・エアロビクス・リトモス・ヒップホップ・ヨガ・太極拳・機能改善など)</li> <li>・テーマ別運動講座(機能改善講習会(年2回、30名参加予定) スロースクワット講習会(年1回、30名参加予定) 呼吸法講習会(年2回、30名参加予定) 骨盤底筋引き締め運動(年1回、30名参加予定)</li> <li>・参加者からの収益金の一部は長野市内の福祉施設などへ寄贈品となる。収益金目標は39万。</li> </ul>
審査委員 コメント	<p>・世代を越えた人々がさまざまな運動を通じてつながりを深め、健康増進を図っていく機会が増えることは大事なことだと思います。より多くの人が参加できるようなPRと持続可能な取組みを期待します。</p> <p>・子どもや若年層の体力づくりと共に「チャリティーフィットネスまつり」の収益金の一部を福祉施設へ寄贈する姿勢がよいと思います。</p> <p>・参加者からの収益金の一部が、長野市内の福祉施設への寄贈品になることは立派で、趣旨にも賛同します。一方で長野市の補助金が事業の財源となっていますので、寄贈品の財源とは明確に切り分けをして有効に活用していただきたいと思います。</p> <p>・講師謝礼金を抑えるような工夫をしていただきたいと思います。</p> <p>・貯筋大学、長寿県を維持していくことは、大事な取組みですが、市内の実態の把握と、対象年代を絞り込んだ上で、継続的な事業にするための工夫を凝らしていただきたいと思います。</p> <p>・チャリティも兼ねたフィットネスという切り口に違和感は感じますが、同時に可能性もあると判断しました。その先にある健康である事=社会貢献というイメージを参加者にうまく伝えていただきたいと思います。各事業への参加動員数を増やし、イベントとしての媒体価値を高めてください。</p>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	12
受付番号	14
団体名	ちょうまの会
部門	【ホップ】
補助金要望額 (円)	648,000
活動名	善光寺平の「食のこよみ」を軸とした、食と農の教育
活動の 目的・内容	<p>農業を生活の中心にしていた頃郷土にあった食の知恵や健康維持の秘訣、郷土の食や農の習慣を聞き取り調査し学んだ知恵や習慣を地域に伝承するため、郷土の「食ごよみ」を作り、郷土のすぐれた食文化や歴史の伝承を「食ごよみ」を中心に地域全体ですすめ、健全で明るい未来づくりに役立てたいというのが活動の目的です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 善光寺平の食ごよみの編集と制作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の親子が楽しみながら「かたり」「つくる」ことができるよう、分かりやすく紹介する。</li> <li>・おばあちゃんやおじいちゃんの知恵や教訓がいまと将来に生かされるような「ヒント」「エピソード」を豊富に盛り込む。</li> </ul> </li> <li>2 伝承活動を行うリーダーの育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・かたり部研修</li> <li>・行事食・伝統食の料理研修</li> </ul> </li> <li>3 研修終了後の実践活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統食、行事食の発表と試食会の開催</li> <li>・各地域での伝承活動「親子料理教室」</li> </ul> </li> </ol>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に伝わる伝統食、行事食を次世代に伝える意味は大きいと思います。</li> <li>・伝統食については、既に多くの本やレシピ集が出されている中で、過去を認識しあい、必要に応じて、継承していくことが大事であると思います。</li> <li>・伝承活動を行うリーダーの育成に特に力を入れていただきたいと思います。</li> <li>・各地区に伝えられてきた伝統食は世代が若くなるに従い、知る人が少なくなってきました。伝統食を知っている人たちが健在であるうちに、しっかり調査し、次世代に伝えていけるよう期待しています。</li> <li>・「食ごよみ」の完成が楽しみです。将来的に若者世代の活用を推進してください。例えばインターネットやアプリ展開など、さらなる次のステップを検討していただきたいと思います。</li> <li>・「食ごよみ」の販売計画をしっかり立てていただきたいと思います。</li> <li>・郷土の食と文化をより広い範囲に発信する事で、善光寺平の活性につながると思います。</li> <li>・伝統食の中には、塩分の取り過ぎのようなものもあるだろうし、改善しつつ残したいもの、継続したいもの等がある中で、全てやろうとするのは大変な作業が必要です。どのような郷土食を残していくのか、残したいのかを絞り込むことも必要だと感じます。</li> <li>・地産地消により、会員から食材の調達をしているようですが、計画的な契約栽培にしたりして、農家との結びつきを見出す中で、無農薬栽培に興味を示す方もいるなど、更に活動は一連の流れを作ることができると思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	13
受付番号	22
団体名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト
部門	【ホップ】
補助金要望額 (円)	470,000
活動名	子どもの声が響きあう明るいまちづくり ～地域で子育てのモデルづくり～
活動の 目的・内容	<p>マンションやアパートに住む、乳児を中心に子どもとその保護者に焦点を当て、子育て支援・子育て支援を行うことにより、地域の人々の関わりを通しての子育てのモデルを作るとともに、権堂の活性化に努める。</p> <p>1 おしゃべりスペース「絆」(週2回)…乳幼児から高齢者まで世代を越えて誰もが気軽に集える場所をつくり、地域で子育てのモデルを作る。(シニア世代とのお茶のみサロン 等)</p> <p>2 スマイル広場(週2回)…子育て・子育てに関する講座を商店や企業等の方を講師に迎え開催し地域ボランティアが関わることのできるシステムの構築など、共に育つ「子育て・子育て」の場づくりを推進する。</p> <p>3 権堂まちづくり参加…まちづくり長野、商店街、企業と連携し、季節行事等と一緒にやる。</p>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション、アパートに暮らす人々が増えて、子育ての孤立化は深刻です。シニア世代とのお茶のみサロンなどを通じて交流の場を育てていただきたいと思います。まちなかの拠点の中で子育てを応援する取組みは、時代のニーズに合った取組みだと思っています。多くの皆さんの参加を期待します。</li> <li>・権堂地区周辺のまちづくりは、繁華街や商店街ばかりでなく、生活している人の顔が見えることが大事であると感じます。「じゃんけんぼん」の実績を生かして、地域の中での位置付けを実践していただきたいと思います。</li> <li>・地元の商店主を講座の講師として迎え、マップの作成を考えているようですが、地元とどのようにつながり、継続していかれるのか工夫していただきたいと思います。</li> <li>・権堂の活性化と子育ての関連性を明確にしていきたいと思います。</li> <li>・地域に根ざしつつも、徐々に対象エリアが広がるよう、企画等を進めていただきたいと思えます。会場のキャパシティや人員の問題もあるとは思いますが、コミュニティの層を厚くしていき、成功事例を積み重ねていただけたらと思います。</li> <li>・3年計画で自立できる方法を模索しているようですが、自立と共に継続性をもって活動をしていただきたいと思います。</li> <li>・広報の方法に工夫が必要ではないでしょうか。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	14
受付番号	1
団体名	篠ノ井の応援団 篠～しなやか
部門	【ステップ】
補助金要望額 (円)	394,000
活動名	篠ノ井ミッケ・プロジェクト
活動の 目的・内容	<p>郊外の大型量販店や全国チェーン店に押されて、衰退傾向が続く篠ノ井の駅前商店街で「しの駅バル」（食べ歩き飲み歩きイベント）や、オリエンテーリング形式の「宝探しゲーム」等を開催することで、意欲的な個店への集客を直接的・継続的に支援する。また、「エコキャップ子供広場」や「よこまちガレージマーケット」を開催し、ご当地キャラクター“おしのさん”を活用して幅広い広報活動をする事で、篠ノ井ならではの“オンリーワンの魅力”を再認識してもらい、停滞傾向の商店街への集客増加に貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>しの駅バル…飲食店を飲み歩き、食べ歩いて楽しむ企画</li> <li>懸賞付き宝探しゲーム…商店街全体が舞台のオリエンテーリング</li> <li>エコキャップ子供広場…ボトルキャップやプルタブで参加するゲーム</li> <li>よこまちGM（ガレージマーケット）…フリーマーケット</li> <li>ご当地キャラクター「おしのさん」の活用</li> </ol>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに面白い試みが盛りだくさんなイベントだと感じました。ご当地キャラクターの開発・運営をはじめとし、これからもぜひトレンドを意識しつつチャレンジを続けていってください。短絡的に経済効果を追うのではなく、そういったことを続ける気質が地域の宝に成長していくと思います。「おしのさん」のアニメ化、期待しております。</li> <li>・篠ノ井の活性化のための取組みが次第に輪を広げ、元気なまちづくりが形になってきたと思います。新しい切り口により更なる活性化に期待するとともに、他地区のモデルになるよう頑張ってくださいと思います。</li> <li>・楽しい企画活動だと思います。まさに篠ノ井地区を楽しくする！今後の経済的自立が課題ですね。「しの駅バル」は良い企画で、今後の開催に期待できます。</li> <li>・地域の特性を生かすという点に関して地域文化を取り入れていくようなことがあってもいいのではないかと感じました。</li> <li>・しなやかな発想で、篠ノ井駅周辺に展開するまちづくり企画は面白いと思います。この応援団に関わる人をどれだけ増やせるか、また集客できるかが課題だと思います。</li> <li>・参加者が少ないということですが、そもそもこのイベントを知らない人が多いと思います。効果的なPRを行うことで、参加者数を拡大していただきたいと思います。</li> <li>・今後、大きな金額を占める「しの駅バル」関係の経費をどのように確保するのが課題になってくると思います。参加店への負担増額を早めに仕掛けるなど運営のノウハウを蓄積し、事業の精査が必要ではないかと感じます。</li> <li>・篠ノ井駅周辺の活性につながる良い案だと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	15
受付番号	9
団体名	チーム「おさるのかごや」
部門	【ステップ】
補助金要望額 (円)	304,000
活動名	童謡お猿のかごやで町おこし
活動の 目的・内容	<p>松代は数々の有名童謡の作詞家・作曲家にゆかりの童謡発祥地ということもあり、これらの歴史財産を通じてさまざまな交流、発掘、そして広域にわたるPRにつなげていくことができる。いろいろな所で行われている各地の“ゆるキャライベント”に参加し、「童謡のたくさん生まれた“童謡の町松代”」をWEB媒体等も使い、全国的にPRし、知名度を上げる事。 長野の子どもたちが長野の童謡なのだど胸を張って歌ってくれるようになる事。 地域の童謡を通じて、各種活動団体と、協力の幅を増やして行き、活動の視野を広げる事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園・幼稚園・養護施設・小学校・児童センター・中学校・高校・各種活動グループ等へ、活動内容を明確に示し、賛同や協力が得られた時点での合同童謡イベントを引き続き継続する。</li> <li>・松代町内に限らず、長野市内の児童館への協力依頼に応じていく。六モンキーを通じて、長野市単位での子どもとのふれあい、そして童謡の普及を積極的に継続し、地元松代のブランド力を違った角度から高めていく。</li> <li>・ホームページに活動内容の随時更新。</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単に観光大使的な位置づけのキャラクターと違い、童謡の町のPRという特徴を最大限に活用し、他と明確に差別化した発展をしていただければと思います。今後のグッズ開発においても商品ターゲットをよく分析し、あらゆるチャネル、メディアでの活躍を期待しております。</li> <li>・童謡の里づくりに向けて、地域の人々に地元のゆるキャラとして認知してもらえるように更なる活躍を期待します。愛される六モンキーの活動を、ぜひ継続してください。</li> <li>・ゆるキャラをもっとアピールする事で松代や長野市に人が集まり活気づく事が期待されると思います。</li> <li>・童謡で町おこしの発想がユニークです。取得したアドバイザーの資格を活かして、児童館などで大いに活躍していただきたいと思います。</li> <li>・地区の童謡を歌うことが好きな人が集い、歌うことを通じて、イベントへの参加、グッズの販売等で収益を得る、という活動の流れができてきたように感じます。</li> <li>・登録料や着ぐるみが100万円以上するということがありますが、その維持に多くの事業費をあてることから抜け出て、会本来の目的をどこに置くのか、そのために何の事業が必要か、あれもこれもから基本に立ち返る一年にさせていただきたいと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	16
受付番号	11
団体名	Happy Spot Club (ハッピー スポット クラブ)
部門	【ステップ】
補助金要望額 (円)	450,000
活動名	ハピスポひろば
活動の 目的・内容	<p>私達は福祉に関する諸問題は、“人と人の相互理解”不足が根源にあると捉えています。ハピスポひろばは「明るく」「楽しく」「敷居が低い」をモットーに、障がい者と一般者の交流を深めるだけでなく、福祉やボランティア活動に興味はあっても一歩を踏み出せない潜在的な人々に直接アピールし、運営にも携わっていただくことで、この分野にいざなう事も大きな目的です。このイベントで触発された人がキーパーソンとなり、自分の周囲や地域で障害者への理解を促進するきっかけとなり、最終的には長野市全体に波及することを目的としています。</p> <p>■活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一部は、障害やさまざまな事情を持った方々と地域のみなさんを対象とした催事とする。会場を飾り付け、各種遊具を配し、音楽や各種パフォーマンスのステージプログラムも組み合わせ、来場者が一日を楽しめるイベントとする。</li> <li>・第二部は、主に地域のみなさんを対象とし、福祉活動に先進的な取組みをしている団体の方、あるいは有識者を講師として招き、講演会を行う。</li> <li>・ハピスポひろばの終了後、スタッフ研修会を行う。福祉関係者を招き、お互いのスキルアップを図る。</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野市にはいろいろなイベントを実施・運営している団体がありますが、福祉及びバリアフリーという点では立ち後れていると感じる事が多々あります。事業を通じた啓発活動により、まち全体の意識向上に結びつけば素晴らしいと思います。他団体との更なる連携、発展を模索し、新たなステージを構築していただきたいと思います。「音楽」と「デザイン・装飾」に力を入れたらより良くなるのではと感じました。</li> <li>・垣根の無い世界を目指して、地域イベントとのコラボレーションを行うことで、未来につなげていきたいという熱い思いや、現代社会の中で不足しがちな良好な対人関係の構築に向けた目標は大事であり、スタッフの熱心なプレゼンテーションからも感じとることができました。</li> <li>・障害者と一般者の間に立ちほだかる壁は厚く、それは相互理解の不足からきている面が大きいと思います。長野を真の意味でノーマライズするために頑張っていたいただきたいと思います。</li> <li>・個別のかけがえの無い方の心を動かし、活動の充実は見て取れますし、他団体との連携につながったことは貴重ですが、会員や協力スタッフの増加など目に見える数値も大事であるので、更に精進していただきたいと思います。</li> <li>・明るく楽しく敷居が低いというモットーが躍動的なプレゼンテーションで伝わってきました。楽しさのなかで障害を持った人々との交流の輪を広げていっていただきたいと思います。</li> <li>・「ハピスポひろば」を通じて、笑顔で生き甲斐の持てる地域づくりができるよう期待しています。</li> <li>・障害者のサポートに密接に関わることで多くの人の理解を得る事ができれば、障害者の自立につながる事が期待できると思います。</li> <li>・年に数回のイベントとその準備だけで、目標とする社会の構築は近くないので、活動を長続きさせるためにも、通常の地道な活動と併せた方策を考えていただきたいと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	17
受付番号	18
団体名	信州パネルシアター研究会 らっぽぽ
部門	【ステップ】
補助金要望額 (円)	108,000
活動名	パネルシアター公演・講習会（月下和恵 先生）
活動の 目的・内容	<p>OA機器が発達してきた今日、人対人の関係がうまく運べない人間が多くなりつつある。テレビを見るように受け身ではなく、生のステージで一緒に歌ったり、クイズや手あそび等、みんなで楽しいひとときを過ごすことが人対人の関わりを持つ上でも大切だと考えている。</p> <p>より多くの人たちにパネルシアターを見るばかりでなく、演じる楽しさも伝え、広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子向けの公演会では、親子の絆を深めるきっかけを作る。</li> <li>・特別講師による上演、制作、講習会では、パネルシアター愛好者や新たに取り組もうとする人の技術向上を高めることを目的とする。</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルシアターのアナログ表現は大変魅力的です。多様なテーマを分かり易く、楽しく上演することで、情操豊かな子どもたちの心を育てていただきたいと思えます。</li> <li>・忙しく動く現代人にとって新鮮な企画であると思えます。癒しと人間形成の一助となるよう、期待します。</li> <li>・有名講師を呼び続ける形態から、ご自分たちの持っている作品等の充実に軸足を移していったらいかがでしょうか。多くの人々にパネルシアターの楽しさを知っていただき、近い将来東京から講師を招かなくても、長野の中で講師が育ち、輪を広げていけるよう期待します。</li> <li>・財務関係が講師関係費に偏ってしまっている点が若干気になりました。現在は育成期間でもあるということで、近い将来、長野からパネルシアターのデザイナー及び講師が生まれ、文化発信の地域となることを期待しております。これからは他団体や、美術関係の教育機関等とも連携を模索していただき、今までに無い新しいパネルシアターの世界を創造していただきたいと思えます。</li> <li>・個別の活動を通じて、保育園や児童館等での地道な活動により、パネルシアターのもつ魅力を広げている仲間が横のつながりをもって、日本の第一人者を招き、公演・講習会を開いていることは、それなりに意義深いと感じます。自身のスキルアップと会の拡大は、まず、自身の努力で行うことが前提であり、一流のものを、関係者に見て感じていただくことを団体の事業の中で意義付けていただきたいと思えます。</li> <li>・フェスティバルの開催にあたっては、他団体とのコラボレーションにより、実現させていただきたいですが、団体の設立目的である「親子の絆を深め、未来ある子どもたちに元気を与える」と、事業の最終目標を「地域活性化」としていることを整合させていただきたいと思えます。</li> <li>・今後の自立や運営費について考えていく必要があります。良い事業ですので継続していただきたいと思えます。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	19
受付番号	21
団体名	特定非営利活動法人 みどりの市民
部門	【ホップ】
補助金要望額 (円)	133,000
活動名	竹林活用の地域資源循環プロジェクトⅡ（生ごみの堆肥化基材の品質向上と販路の確立）
活動の 目的・内容	<p>西山地域では竹林（淡竹）が放置され、里山の荒廃地化の原因の一つとなっています。一方、長野市では生ごみの減量の対策として自家処理による堆肥化を進めていますが、その堆肥化の基材を地元で調達し消費することが課題となっています。そこで、今年度は、竹チップを活用した生ごみの堆肥化の実践と研究を行い、低コストで品質の良い竹基材の開発を行います。又、その製品の販路を確立し、竹製品の需要の拡大を目指します。</p> <p>今回のプロジェクトは、これらの活動により、生ごみの減量と堆肥化のさらなる推進を図り、竹林の整備が進み、地域の資源循環と地域の活性化を目的とします。</p> <p>■活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 竹基材利用による「西山淡竹会」との連携</li> <li>2. 竹基材活用の生ごみ堆肥化の先進地視察（金沢予定）</li> <li>3. 竹基材による生ごみ堆肥化の研究（竹チップの薫炭作り等）</li> <li>4. 竹基材による堆肥化実施モニターの募集及び堆肥化実践</li> <li>5. 生ごみ堆肥の利用による野菜・花の栽培（モニターによる）・竹基材の堆肥の使い方の説明会</li> <li>6. 西山淡竹会との連携により竹基材利用者のための販路の確立</li> <li>7. 堆肥の成分分析</li> </ol>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の荒廃化の要因となっている竹と生ごみ減量・堆肥化を結びつけ、地域循環システムをつくらうという取組みが興味深いと思います。竹基材をいかに販路に乗せるかが課題であると思います。</li> <li>・増え続ける竹について、環境の循環のルートを構築し、中山間地域におけるビジネス展開などにより、継続性につなげていただきたいと思います。</li> <li>・生ごみ減量に向けた取組みの中で西山地区の竹チップとの出会いは、他分野との協働を実現した点でユニークな取組みだと思います。</li> <li>・山形県長井市のように生ごみ減量化には行政と市民との協働による仕組みづくりが必要かと思えます。竹の良い活用方法ですので、より広げていただければ良いと思います。</li> <li>・予算が安価で良いのですが、今後の継続に影響が出ないのか心配です。</li> <li>・竹をパウダー状にするためにかかる時間、燃料を費やす環境負荷、手間ひまを考慮し、この事業でどの程度の竹林整備が可能なのか、目に見えた目標設定が必要であると思います。</li> <li>・この活動により今後竹材の活用が開発され、我々の生活に浸透してくる将来を期待します。活動の進捗や成果を広く広報し、こういった再利用・副利用の考え方の普及に努めていけば商業化も含め更なる成果があるのではと思います。</li> </ul>



平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	20
受付番号	25
団体名	a r t Reno (アートルノー)
部門	【ステップ】
補助金要望額 (円)	600,000
活動名	「アートルノーコンペ1stシーズン」入賞作品の公開活動
活動の 目的・内容	<p>現在、不動産物件の需要は確実ではなく、空き室がなくなる保障はない。空き室を放置していれば、建物が傷み、町が寂れ、人が集まらないという悪循環に歯止めがかからなくなる。そこで築30年超の中古集合住宅の「リノベーション」の途中経過をいろいろな手法で公開し、再生のモデルケースとして示しながら、新たなまちづくりへの提案や、同様な悩みを抱える物件オーナーへの情報発信を図る。「リノベーション」の面白さ、楽しさ、有効さを長野にも広めたい。</p> <p>前年開催した築34年の中古集合住宅リノベーション案コンペの入賞作品を、発表会や冊子の配布、ホームページ、SNSの活用等で広告し、また並行して対象物件オーナーと調整しながら、実際に採用して形にし、その途中経過や採用後のビルの様子を公開する。賃貸物件の「リノベーション」の考え方などについて、学べる場を設け、不動産賃貸業関係者（建築設計・不動産仲介業・不動産管理者等）の啓発活動を行う。</p>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる「不動産物件」のコンペではなくアートとしての側面に可能性を感じます。ただ、やはり成果物に対しての公益性をどのように加えていくかというポイントは当補助金制度の対象としては重要になってくると思います。いわゆる一般企業が営利目的で行う商業企画とは違う、という事がだれもが分かるよう広報及び啓発に注力し、展開していただければと思います。</li> <li>・リノベーションを用いた中古建物の再活用の理念は理解できますが、各々の保有資産の活用は各人の資金により考えるべきことです。それらの集合体が、通りとして、もしくは地域としてのまちづくりにまで発展して、初めて公金投入の意味が出てくるものと思います。</li> <li>・物件選定の段階から、自己のための利益とならないよう選択に注意し、地域の活性化とどうつながっていくのか明瞭化しておく必要があると思います。</li> <li>・古い集合住宅のリノベーションは、これから地域の大きな課題となるだろうと思われま。再生のモデルケースが、新しいまちづくりの先駆的役割を果たすことを期待したいと思います。</li> <li>・中心市街地と中山間地の均衡ある発展のためにも、定住化促進は、地域課題の解決に向けた取り組みです。新しい付加価値をつけて対応するなど、対象区域を拡大していただければと思います。</li> <li>・アートルノーコンペという新しい取り組みがこの事例を通して広まり、長野に活気がもたらされることを期待します。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	21
受付番号	6
団体名	長野レコードクラブ
部門	【ジャンプ】
補助金要望額 (円)	190,000
活動名	SPレコードコンサートを行うことにより、市民の融和と地区の安全を図る
活動の 目的・内容	<p>地区住民の中には自分勝手な行動をしている人が多い。子どもの通学路での安全は学校や警察の責任、年寄りの閉じ籠りや孤独死の問題は市の福祉関係者の責任だから自分には関係無いと横を向いている。</p> <p>これらの問題は地区住民全員の共通な課題として、全員で解決しなければならない。学校や警察、市にだけ責任を押し付けていたのでは絶対に解決しない。</p> <p>これは住民同士の横の連絡が十分取れていれば防ぐことができる。それには同じ趣味を持つ人が集まり好きなグループ活動をすれば、楽しみながら人の輪が広がってゆく。住民の融和を図ろうと肩肘張って活動するよりも長続きできる。</p> <p>これを目指して「長野レコードクラブ」を立ち上げ「SPレコードコンサート」を開催してきました。試行錯誤を繰り返し、準備期間も入れて7年間に31回行い、参加者も延べ1,320人になりました。評価も「良い」90%、「又来たい」75%を貰いました。まちづくり補助金の応援も頂きソフト面も充実してきましたが、今後は参加者数の増加を図ることが最重要課題です。参加者が増えれば会費が増えて会の運営がしやすくなる。</p>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績を重ねるとともに、期初の目標にある融和のとれた地域におけるメリット、つまりは治安の維持向上や孤独死の防止などに対し、具体的にどの程度貢献できているかという検証が必要ではないでしょうか。検証は、性急に最終結果を求めることが目的ではなく、コンサートの価値向上のヒントやきっかけになると思います。</li> <li>・「SPレコードコンサート」が多くの場所で、多くの人々に楽しみや喜びを与え、ファンの心をつかんできたのは驚きです。今後マネジメントにも工夫を凝らして、未永く継続して行っていただきたいと思います。</li> <li>・根強いSPファンを中心に一定の効果を上げてこられたと思います。今まで取り組んできた地道な活動を次の世代につなげていけるよう期待しています。</li> <li>・次世代への引継ぎを工夫してください。地域との関連性としてコンサートだけではなく、いつでも聞いて楽しめるような場があっても良いのではないのでしょうか。</li> <li>・資金に関して、例えば準スタッフのような関わり方ができる人と、一般参加者の参加費を分けたりする手法は検討の余地があるように感じました。社会性を更に高めるような企画を加えて参加意義を向上させ、資金面・人材面も改善していただければと思います。</li> <li>・これまでの活動を振り返って、単に趣味としての会員の増加にとどまっていないか、あるいは、当初に目指した近隣のコミュニティの増進・再生の効果を検証するの必要を感じます。</li> <li>・今回の補助が最後となりますが、会の自立と事業の継続を考える一年としていただきたいと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	22
受付番号	7
団体名	「唱歌と童謡のまち」をめざす実行委員会
部門	【ポップ（スタート枠）】
補助金要望額 (円)	228,000
活動名	第2回「唱歌と童謡のまち」をめざすシンポジウム(日本のこころを伝える唱歌・童謡と音楽記念館の果たす役割)
活動の 目的・内容	<p>唱歌・童謡が誕生した歴史と日本の音楽文化や地域への影響及び現状の評価、今後のあるべき方向性について研究。また、唱歌・童謡の誕生・発展に果たした長野県出身者の功績と顕彰について提言するために次の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・唱歌・童謡の生まれた背景と日本の音楽文化への影響について学ぶ。</li> <li>・長野県出身の作詞・作曲家の活動と実績について学ぶ。</li> <li>・学校教育における唱歌・童謡の変遷と現状について学ぶ。</li> <li>・音楽記念館の現状と課題、今後の展望、役割について考える。</li> <li>・文化芸術によるまちづくりの推進と文化芸術による新たな観光戦略の研究</li> </ul> <p>■活動内容 長野県内にある音楽関係の資料館の館長、及び伊澤修二先生を顕彰する音楽祭の実行委員会の責任者の方などに集まっていたいただき、会館や活動の現状、意識や効果、資料の保管や維持管理などの運営上の課題、今後の活性化の方策などについて論議していただく。更に長野市の新たな市民会館の竣工を機に、日本の近代音楽をリードし、唱歌と童謡の日本独自の音楽文化を築いてきた長野県出身者の活躍を振り返り、学校教育や社会教育を通じて音楽文化による地域づくりについて、その方向性を見いだしていきたい。</p>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土が輩出した唱歌・童謡の作家たちに関わる音楽資料館を長野市に創りたいという実行委員会の熱意が伝わってきました。実現のためには、多様な主体との協働が必要となるでしょう。</li> <li>・専門的には、唱歌と童謡は大きく異なるようですが、それらに関わる皆さんの小異を捨てて大同に、の姿勢がまとめられているように感じました。長野市出身の童謡作詞作曲家を顕彰し、次世代に伝えていくための拠点整備が実現できるように期待します。</li> <li>・計画の中にアンケートなどの意識調査を盛り込む事を検討していただきたいと思います。同時に一般市民に向けた広報も実施していただき、関係者だけでなく広く意見を集め、更なる周知を図るべきと感じました。ハードの有無ではなく、子ども達の歌が自然に聞こえてくるような、そんな社会の実現に向けて各種事業を展開していただけることを願います。</li> <li>・市役所の担当部門と密に連携しながらコンサートなどを開催して、更に長野の良さを発信することができれば良い事業になると思います。</li> <li>・幅広い人脈と組織力により、市民が文化力を実感できるような息の長い活動となることを期待します。</li> <li>・童謡や唱歌を通じた音楽文化の形成には、保育園や幼稚園、小学校等との連携も大事だと思います。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	23
受付番号	10
団体名	川中島平俳諧研究会
部門	【ジャンプ】
補助金要望額 (円)	141,000
活動名	川中島平の江戸時代以後における俳諧（俳額と句碑の解説等）の資料調査と住民の参加
活動の 目的・内容	<p>長野市南部地域の江戸時代以後の俳諧活動状況を調査し冊子としてまとめる。調査資料からデータベース化を行い、資料を蓄積する。調査にもとづき句碑・俳額所在地のマップを作成する。また説明板を立てる。ホームページにより調査内容を検索することができるようにする。さらに地域の人々とともに視察見学を行い、認識を新たにする。より多くの住民の参加と普及を図るため一層のPRと宣伝を強化する。</p> <p>■活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現在までの俳諧に関係する句会の本及び資料の収集を年表にまとめる</li> <li>2 川中島平の未調査句碑、俳額の視察調査及び発句者の調査</li> <li>3 句碑、俳額を撮影し記録にまとめ、データベース化を図る</li> <li>4 視察の句碑、俳額めぐりにおける参加者に参加目的などの聞き取り調査を行い、今後の参考に する</li> <li>5 調査・研究の考察と進捗状況、俳額の解説を行うため研究会を開催する</li> <li>6 住民自治協議会や賛助会員への句碑、俳額めぐり参加の呼びかけ(ブログなどの活用)</li> <li>7 調査研究冊子の発刊</li> <li>8 句碑、俳額の案内板の設置</li> </ol>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース化が順調に進んでいると感じました。もっと多くの住民に知っていただけるよう、工夫を凝らせると思います。</li> <li>・研究、解説した後、地域などにどのよう広めていくのかが課題となると思います。このような活動は地域の歴史をひもとく事につながるので継続する事を期待します。</li> <li>・しばらくはまだまだ調査等での課題に直面されるでしょうが、各種資料の完成まで継続していただきたいと思います。一方でデータベースや各種冊子等の完成後の展望・計画の検討をより一層進めだきたいと考えます。世界、あるいは国内の他地域との比較等の研究も深めていただき、その上で活動の独自性を開発・確認していくことにより、価値向上につながっていくのではないかと思います。</li> <li>・単なる愛好者の集まりでなく、消えかかっている文化遺産の電子データ化など地道な発掘に取り組んでおられ素晴らしいと思います。</li> <li>・ホップ、ステップ、ジャンプを通じての活動は素晴らしいと思います。特に資料の収集とデータベース化を高く評価します。</li> <li>・資金面での自立は重要であることから、研究成果を集約し、それを販売して収益を得るなど、活動の継続性を工夫していただきたいと思います。</li> <li>・地域の歴史や文化の掘起こしは継承の上でも大切であり、地元区や自治会、更には住民自治協議会と連携することを考えてはいかがでしょうか。</li> </ul>

平成25年度 ながのまちづくり活動提案 審査委員コメント

発表順	24
受付番号	19
団体名	長沼歴史研究会
部門	【ステップ】
補助金要望額 (円)	140,000
活動名	「今 蘇る長沼城」～歴史が感じられる町作りを目指す～
活動の 目的・内容	<p>地域の中に320年解明されないまま眠っていた城が、各箇所に看板が立ち、史跡マップが配付される等して、見えるようになってきた。しかし、城があり、北国裏街道が通り、長沼宿が栄え、一茶は660日も滞在したこの地には、賑やかであったと思われる江戸時代の歴史遺産が沢山ある。今までは見えない物(城)の解明を進めてきたが、今年は今残っているこれらの遺産(石造物等)に視点をおき歴史解明を進めていきたい。「歴史薫るまち長沼」としてさらに体感できる町作りを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石造物の資料集を作る</li> <li>・石造物の企画展示会を開催する</li> <li>・赤沼区有文書の調査</li> <li>・中世の城を見学する</li> <li>・長沼城の歴史を題材とした冊子をつくり、子ども達に読み聞かせをする</li> </ul>
審査委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史の中に埋もれていた長沼城の史跡を掘り起し、北国裏街道、長沼宿の存在を住民自らの力で蘇らせた功績は大きいと思います。このような地域住民の熱い志と行動力は、これからのまちづくりにも発揮されると思います。</li> <li>・地域の資料収集、整理、電子化からそれを活かした展開まで大変良くやられたと思います。幻だった長沼城が皆さんの地道な努力によって姿を現してきたことに感動しました。</li> <li>・地域の歴史を知って長沼に生まれてよかったと子どもたちも地域に愛着を持ち、誇りとなるような取組みを期待しています。</li> <li>・系統立てて行ってきたこれまでの活動は大いに評価できますし、地元の住民も含め活動への自信がついたと思います。</li> <li>・素晴らしいマップができて、感動しました。若い人の参加が増えれば、今後の継続や活気あるまちづくりにつながると思います。</li> <li>・今後は、集めたデータや写真、映像の類を集約し、公共の場所で発表するなどの活動に転じていくことで、地区内だけの活動から抜け出して、広がりを見せることになると思われるので、更なる発信を期待します。</li> <li>・広報等の重要性が増してくるのではないかと感じました。対外的にはもちろんのこと、子ども達をはじめとした地域住民への発信こそが、目指すまちづくりに向けた重要なステップだと思います。例えば地域の行事やイベントに連動するなどして内外の意識改革を進め、「街全体で歴史を楽しむ」、そういった雰囲気づくりに向けた活動も検討してはいかがでしょうか。</li> <li>・もっと広い範囲にもアピールしても良いのではないのでしょうか。</li> </ul>